

猛暑日の暑い日が続いた夏も終わりを迎え、朝晩が涼しくなってきましたね。
園庭にトンボも飛び交っています。秋がやっと来た感じです。気温の差に体調を崩しやすくなりますので、水分補給、三食きちんと食べる、十分な睡眠をとるなど体調管理に気を付けていきましょう。今まで、暑さで外に出る頻度が少なかった子どもたちですが、これから外に出る機会も増え、さらなる成長が楽しみです。

GUESTに聞いてみよう♪ Vol. 4

道徳性・規範意識の芽生えとは

— GUEST：平石 智美

『10の姿』という言葉を目にしたことがあるでしょうか。正式には『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』と言い、教育・保育要領の中で位置づけられ、育ちの視点や目標像のことを示します。その中の1つに『道徳性・規範意識の芽生え』があります。



『道徳性・規範意識の芽生え』とは、

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになることです。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになります。園生活を送る中で、このような姿が様々な場面で見られるようになります。



例えば、5歳児で鬼ごっこを行うとき、ルールを保育者が伝えてからそのルールに従って行えるようにするのではなく、遊びを知っている子どもが、簡単にルールを説明し、保育者がそのことをその場にいます子どもたちと共有し始めます。遊んでいると、ルールを守らずにズルをする子が出てきます（子どもの育ちの中で自然に出る姿）。そんな時、保育者が正しいルールを教えてルールを守らせるのではなく、子どもが必要だと感じた時に、新たなルールを作り出せるよう見守ります。ルールを作っていく中で、子どもたちが様々なことに気づき、意見を伝えます。ズルをしてでも勝ちたい気持ちがある一方で、ルールを守らないと遊びが中断してしまったり、友達とケンカになってつまらなくなったりします。このような葛藤の中、繰り返し遊びを楽しむことで、自分の気持ちを整理していけるようになり、きまりは遊びや生活をより良くするということが気づいていきます。

きまりを守るということは、4・5歳児に多く見られますが、小さい時、例えばすべり台など1つしかない遊具を順番に使ったことも大事な体験です。このように園では、家庭ではできない集団生活ならではの経験がたくさんあります。その経験が積み重なって、大きくなった時の育ちへと繋がっていきます。



これから、気温も落ち着いて園庭で遊ぶ機会も増えてくると思います。私たち保育者は、子どもの年齢に合った様々な遊びを考え、その中で、『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』を意識して、子どもたちと引き続き関わっていきたいと思います。

